

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	神学部
大項目	5 学生の受け入れ
中項目	
小項目	5.0.1 学生の受け入れ方針を明示しているか。
要素	求める学生像の明示 当該課程に入学するにあたり、修得しておくべき知識等の内容・水準の明示 障がいのある学生の受け入れ方針
小項目	5.0.2 学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に学生募集および入学者選抜を行っているか。
要素	学生募集方法、入学者選抜方法の適切性 入学者選抜において透明性を確保するための措置の適切性
小項目	5.0.3 適切な定員を設定し、学生を受け入れるとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
要素	収容定員に対する在籍学生数比率の適切性 定員に対する在籍学生数の過剰・未充足に関する対応
小項目	5.0.4 学生募集および入学者選抜は、学生の受け入れ方針に基づき、公正かつ適切に実施されているかについて、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 神学部の理念・目的の中で表されていたアドミッション・ポリシーを明文化する。	→アドミッション・ポリシーの明文化(2012年度入試実施までに)	C	B	A	A	A
2. アドミッション・ポリシーに基づいて、個別入試制度(一般、AO、推薦入学など)で募集する入学者像を明確にする。	→個別入試制度で期待する入学者像の明示(2012年度入試実施までに)	C	C	C	B	B
3. アドミッション・ポリシーに照らして入学者選抜を検証する制度を構築する。	→既存の入試検討委員会(学部)における検証および教授会に対する報告書の作成(2012年度入試より)	C	C	C	C	C
4. ことにAO入試においては、2004年度(2003年度実施)の入試制度導入から10年を迎える2013年度に向けて、これまでの検証とその選抜方法の再考を行う。	→AO入試実行小委員会および既存の入試検討委員会における検証および教授会に対する報告書の作成(2013年度までに)	C	C	C	B	B
5. 学内ジョイント・ディグリー制度を利用した4年次編入学生の受け入れを実施する。	→神学部内規の改正施行および関連規定の整備状況(2013年度までに)	C	B	B	A	A
6. 入学前教育のさらなる充実を図る。	→入学前教育の実施状況および入試検討委員会(学部)での恒常的な検証体制の整備状況(2011年度入試より)	C	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入試検討委員会(学部)での検討を経て、教授会において、神学部のアドミッション・ポリシー(学生の受け入れ方針)を策定し、明示した(2011年度)。2011年度以降、学部としてウェブサイトや入試要項、『履修の手引き』にて公開している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アドミッション・ポリシーを明文化し、公開したことによって、(編入生などを見込む他学部生を含む)学生や教員に対して、入試において求める人物像が明示され、アドミッション・ポリシーを意識づけることができた。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2017年度入試(2016年度実施)を目処に、入試検討委員会(学部)、教授会において実際の入学者の状況とポリシーとを照らし合わせ、ポリシーに修正・項目追加の必要が認められる場合は、修正・項目の追加を行う。</p> <p>その他</p>	☆
目標2	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 入試検討委員会(学部)での検討を経て、教授会において、個別入試制度の趣旨およびアドミッション・ポリシーを明確化し、募集要項において明示した。個別入試制度の入学者像については、学部長室会、入試検討委員会で慎重に検討している最中である。なお、AO入試、指定校推薦入学においては、実行小委員会、判定会議の段階で、アドミッション・ポリシーの内容を念頭においた選考・議論が行われている。その他の各種入試についてはアドミッションポリシーと照らし合わせ、受験者の経験などから培われた多様な能力をもつ者を幅広く受け入れている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か AO入試での、伝道者コース入学志望者に関しては、実行小委員会、判定教授会の段階で、アドミッションポリシーにおける伝道者コース入学者関連の条項をもとに、より明確な選考が行われるようになった。一般入試、スポーツ選抜、指定校・提携校を含む個別入試全体で求めている入学者像については、多様な能力をもつ者をより幅広く受け入れるためにもアドミッションポリシーにおける募集方針の各要素を見直す必要がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入試検討委員会(学部)、教授会での検討と議論を通して、アドミッション・ポリシーを明確に反映した形での、AO、スポーツ選抜、指定校・提携校入試などの各種入試について、それぞれ募集方針についての要素を検討する。</p> <p>その他</p>	☆
目標3	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか AO入試実行委員会において、アドミッション・ポリシーをAO入試に反映させるため、2014年度入試(2013年度実施)において、面接のあり方を見直し、2015年度入試(2014年度実施)より反映させた。また、判定会議においても当該ポリシーに基づいた判定がなされていると言える。しかし、2013年度までに、入試検討委員会(学部)および教授会において、入学者選抜検証制度の構築に関して具体的な検討を開始するには至っていない。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アドミッション・ポリシーに照らし合わせた入学者選抜の検証を始めている。ただし、具体的な制度の構築には至っていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度中に、アドミッション・ポリシーに基づいた入学者選抜制度について検討をさらに進め、検証制度の構築を目指す。</p> <p>その他</p>	☆

目標4	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2012年度より、入試検討委員会(学部)において、これまでの検証とその選抜方法の再考を本格的に行い始めた。すでに当該委員会においては、AO入試の問題点、学力の担保等につき具体的検討に入っており、選抜方法の再考を始めている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か アドミッション・ポリシーに照らしてのAO入試の検証は始まっている。ただし、具体的な制度の構築には至っていない。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 2014年度中に、入試検討委員会において具体的なAO入試制度の検証をさらに進め、検証制度を構築することを目指す。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標5	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 2010年度の教授会において、4年次編入学の前提となるMS(旧MDS)プログラムの履修体系について、他学部生の受け入れを見据えた学則改正を行った(履修科目の追加、履修基準年度の緩和)。2014年度から、学部としてマルチプル・ディグリー制度(旧ジョイント・ディグリー制度から名称変更)による編入学生の受け入れを開始する旨、全学的に周知しており(各学部「履修の手引き(心得)」に掲載)、募集も開始されている。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 2014年度から受け入れを開始した。受け入れ体制は整っているため、より充実した履修体系を検討するなど、拡充する余地がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 一層のMS制度活用を進めるため、2014年度以降、教授会において科目の単位認定について等、検討と再考を図る。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標6	B	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか スポーツ選抜入試入学予定者について「英語」「国語」の2科目を全学的枠組みで実施している(2012年度より)。また、他の各種入試による入学予定者には「英語」「読書」の課題とともに、それを踏まえたスクーリング形式のプレスチューデント・プログラムを実施するなど(2011年度より)、内容はさらに充実している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 各種入試による合格者に対して、入学前に大学での学習に関して自覚を促すことができている。2014年度より英語プレースメントテストを導入し、各入試制度の枠を越えた習熟度別クラス編成を実施している。ただし、入学前教育の結果、成果を、語学や基礎演習などの初年次科目へとつなげる具体的な方法については入試検討委員会(学部)において検討中である。また恒常的な検証体制についても準備を進めている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入学前教育の結果、成果を、初年次科目の授業内容や指導へと有機的に結び付けるための具体的な方法について、2014年度よりカリキュラム研究委員会(学部)において検討を開始する。それを基にして、同委員会、教授会での検討を経て、2015年度を目処に入学前教育に関する検証体制の確立を目指す。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能なため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【神学部】		単位	2010	2011	2012	2013	2014	備考
指標1	入学定員	名	30	30	30	30	30	
指標2	志願者総数	人	348	206	201	258	228	
指標3	合格者数	名	62	81	78	70	69	
指標4	入学者数	名	25	27	35	32	31	
指標5	志願者倍率	倍	11.6	6.9	6.7	8.6	7.6	志願者÷入学定員
指標6	入学定員に対する入学者数比率(5年間平均)	倍	1.04	1.02	1.02	1.03	1.00	
指標7	入学者に占める一般入試入学者の比率	%	56.0%	63.0%	71.4%	40.6%	58.1%	一般入試入学者数÷入学者数 (注)一般入試にセンター入試を含む
指標8	収容定員	名	120	120	120	120	120	
指標9	在籍学生数	名	136	132	133	128	140	
指標10	収容定員に対する在籍学生数比率	%	113.3%	110.0%	110.8%	106.7%	116.7%	在籍学生数÷収容定員
指標11	編入学生数	名	(6)	(6)	(5)	(5)	(8)	編入学定員がない学部でも、編入学生がいれば記入する。※その場合は()で記入
指標12	編入学定員	名	—	—	—	—	—	
指標13	編入学定員に対する編入学生数比率	%	—	—	—	—	—	
指標14	学部・学科ごとの退学者数	名	2	0	4			

※指標11…編入学定員を持たない学部の編入学生数は()で記入